

北海道大学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）【学部】

○北海道大学のアドミッション・ポリシー	1
○文系総合入試	2
○理系総合入試	3
○学部等	5

・ 文学部	5
・ 教育学部	8
・ 法学部	9
・ 経済学部	11
・ 理学部	13
・ 医学部	16
・ 歯学部	21
・ 薬学部	23
・ 工学部	25
・ 農学部	28
・ 獣医学部	30
・ 水産学部	33
・ 現代日本学プログラム課程	35
・ インテグレイテッドサイエンスプログラム	36

北海道大学のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)

北海道大学は、理系から文系までの全分野において大学院での研究や教育に重点を置く、日本を代表する基幹総合大学の一つです。その起源は、1876年に設立された札幌農学校に遡ることができます。その伝統から、本学は、帝国大学を経て新制大学に至る長い歴史の中で、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」という教育研究に関わる基本理念が生まれ、今日まで学問の自主、自由を培ってきました。

この理念の下に、本学は今、新世紀における知の創成、伝承、実証の拠点として発展することを旨とし、教育研究を通じて、人類の福祉、科学、文化及び社会の発展に寄与することを使命としています。

そのため、学士課程においては、世界における市民としての自覚をもって社会に参加できること、専門の基礎となる学問やコミュニケーションの方法を身につけること、専門分野を広い視野の下に学ぶことを目指した教育を進めています。それを通じて、国際的に通用する高度な学問的素養をもち、健全な市民としての的確な判断力とリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。同時に、専門的職業人として指導的立場にたつ人材の育成、学術創造に進んで向かう人材の育成も目指しています。

これらを実現するため、北海道大学は、創設以来、歴史と伝統を継承しながら広く世界に優秀な人材を求め、学士課程教育を受けるにふさわしい学力、すなわち基礎知識・基礎技能・数理能力・語学力・理解力・読解力を備えた学生、また、大学入学以降の学びで必要な問題解決能力・創造力・倫理性・思考の柔軟性・コミュニケーション能力・論理的思考力・リーダーシップ、人間性や学ぶ意欲などを備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れています。

文系総合入試のアドミッション・ポリシー

文系への進学を決めたが、まだどの学部が自分に合っているのか決めかねている、あるいは興味がたくさんあり何でもやってみたい、そんな思いをもっている人に受けて欲しいのが文系の総合入試です。総合入試の文系では、入学後1年間で文系・理系を問わない幅広い分野を学び、2年次進級時に自ら進路を選ぶことができます。

例えば、人の心について学びたい人がいたとしましょう。人の信頼感や思いやりといった心を学びたいのなら、文学部が良いかもしれません。また、子どもたちが発達段階で見せる様々な心の揺らぎを学びたいならば教育学部、人の消費行動の視点から学びたいならば経済学部、罪を犯す心理に迫りたいならば法学部や文学部が良いかもしれません。同じ心理学でも様々な切り口があり、外からではなかなかわかりません。

また、新しい独創性に富んだ研究は、文学部や教育学部といった学部ごとの学問領域を超えた接点からも生まれてきています。政治や環境問題を見てもわかるように、一つの観点や分野だけではなく、複雑に関連する様々な課題を広い視野から考え、判断する力が求められています。総合入試の文系では、幅広い力を身につけながら、自分に合った道を探したい学生を求めています。

・入学者に求める資質（求める学生像）

(1) 知識・技能

幅広い教養教育と専門教育に主体的に取り組む基礎となる知識・技能を有する人

(2) 思考力・判断力・表現力

多様な考え方を理解しようとする柔軟な姿勢を持ち、物事を多角的に捉えるとともに、自分の考えを適切に表現し、発信できる人

(3) 主体性

様々な課題に粘り強く取り組み、考えを深めることにより解答を見いだす姿勢を有する人

・入学前に学習しておくことが期待される内容

国語については、一般的に必要な基礎知識と論理的な考え方・表現力を身につけるための読解・作文力、地歴・公民については、地理・歴史・社会制度・社会思想などに関する基礎的知識と十分な理解が求められます。また、英語については、国際的に通用する情報を確実に得てグローバルに活躍するためのコミュニケーション能力が重要となります。

・入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストにより、知識・技能、思考力・判断

力を、また、個別学力検査により、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、そして粘り強く解答を見いだす主体性を評価し、入学者を選抜する。

国際総合入試では、第1次選考においてはIB（若しくはSAT又はACT）の成績評価書により、知識・技能を、調査書等の出願書類により思考力・判断力・表現力を評価する。また、第2次選考においては、面接及び出願書類により、思考力・判断力・表現力に加えて、粘り強く解答を見いだす主体性について総合的に評価し、入学者を選抜する。

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力		粘り強く解答を見いだす主体性	
一般選抜 (前期日程)	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(国語, 地歴・公民, 数学, 外国語)	○	個別学力検査(国語, 地歴・公民, 数学, 外国語)
国際総合入試	○	成績証明書 (IB 若しくは SAT 又は ACT)	◎	面接(出願書類の課題論文の内容を含む) 調査書, 志望理由書, 自己推薦書	○	面接(出願書類の課題論文の内容を含む)

理系総合入試のアドミッション・ポリシー

数学や理科は好きだが、自分が学びたい分野がどの学部にあるのか、またはっきりしない皆さんは多いのではないのでしょうか。また、理系学部に進学したいが、大学で詳しく学んだ上で学部を決めたいと考えている人もいないのでしょうか。そのような人にチャレンジして欲しいのが総合入試の理系です。総合入試の理系では、入学後1年間で理系・文系から幅広い分野を学び、2年次進級時に自ら進路を選ぶことができます。

例えば、高等学校の化学が得意なら、結合や結晶構造といった基礎が学べる理学部が良いかもしれません。自動車や電池といった生活に使われる“ものづくり”なら、応用化学が学べる工学部、農作物の病害虫の防除であれば農学部、また人の体を治したいのであれば薬理化学が学べる薬学部、医学部や歯学部、その対象が動物や魚であれば、獣医学部や水産学部でも薬理化学は学ぶことができます。

また、私たちは環境問題やエネルギー問題といった様々な要因が複雑に絡み合った問題にこれから立ち向かわなければなりません。そのためには様々な学問の結びつきを理解し、広い視点から解決策を創造していく力も必要です。総合入試の理系は、理系科目を中心にした幅広い学びを通じて、自分の研究分野を探したい学生を求めています。

・入学者に求める資質（求める学生像）

(1) 知識・技能

幅広い基礎学力を修得しているとともに、理系各分野の学修に必要な基礎的知識及

び技能を有する人

(2) 思考力・判断力・創造性

理系分野における課題を発見・探求し、解決しようとする積極性を持ち、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人

(3) 主体性

様々な課題に粘り強く取り組み、考えを深めることにより解答を見いだす姿勢を有する人

・入学前に学習しておくことが期待される内容

数学と理科については、科学的な理解と、より高度な知識を学ぶために基礎となる学問であり、十分な理解が求められます。国語については、一般的に必要な基礎知識と論理的な考え方、表現力を身につけるため、また、英語については、国際的に通用する情報を確実に得てグローバルに活躍するためのコミュニケーション能力が重要となります。

・入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストにより、知識・技能、思考力・判断力を、また、個別学力検査により、知識・技能に加えて、思考力・判断力、そして粘り強く解答を見いだす主体性を評価し、入学者を選抜する。

国際総合入試では、第1次選考においてはIB（若しくはSAT又はACT）の成績評価書により、知識・技能を、調査書等の出願書類により思考力・判断力を評価する。また、第2次選考においては、面接及び出願書類により、思考力・判断力に加えて、粘り強く解答を見いだす主体性について総合的に評価し、入学者を選抜する。

入試区分	知識・技能		思考力・判断力		粘り強く解答を見いだす主体性	
一般選抜 (前期日程)	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(数学, 理科, 外国語)	○	個別学力検査(数学, 理科, 外国語)
国際総合入試	○	成績証明書 (IB 若しくは SAT 又は ACT)	◎	面接 (出願書類の課題論文の内容を含む) 調査書, 志望理由書, 自己推薦書	○	面接(出願書類の課題論文の内容を含む)

文学部

・学部の理念

北海道大学文学部は、人間と人間の営みが生み出す社会や文化の本質を探究することを基本的理念とする。文学部の使命は、現代が直面する諸問題を理解するために不可欠な人類の歴史と社会、思想と文化に対する深い認識を涵養し、国際化に直面する新しい時代を生きる次代の担い手を育成することである。

・教育目標

全国屈指の多様な研究分野と豊富な教員スタッフを擁する本学部は、高等学校での学修の成果をさらに向上・発展させ、以下のような人材を育成することを目標とする。

- ・本学部で重視されるあらゆる認識と表現に関する知識・技能の基礎となる「ことば」の教育をふまえ、徹底した少人数教育を通じて獲得される、個別の研究分野を深く修めた人材。
- ・分野を横断して総合的に学びながら思考力・判断力・表現力等の能力を涵養し、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢を重んじつつ、現代社会のさまざまな問題に批判的な視点をもって取り組むことができる人材。

・求める学生像

北海道大学文学部は、学部の理念ならびに教育目標を十分理解した、以下のような資質を備えた学生を求める。

- ・人間社会の多様な営みに対して旺盛な知的好奇心をもっている学生。
- ・自ら目的意識をもって計画的に勉学に取り組むことのできる学生。
- ・地域社会や国際社会のなかで率先して自己の能力を役立てたいと考えている学生。

そのために、入学希望者に対しては、以下の点を入学前に身につけておくことを期待する。

1. (知識・技能) 高等学校の教育課程の教科・科目の習得により身につけられる総合的な基礎学力。ならびに、獲得された基礎学力を幅広く応用する能力。
2. (思考力・判断力・表現力) 現代が直面する諸問題に目を向け、深く理解し、考えることのできる能力。ならびに、それを自らの「ことば」によって表現できる能力。
3. (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) 人間社会の多様な営みに関心を持ち、さまざまな意見に耳を傾け、主体性を持ちながら、総合的に学びを深めていく姿勢。

入学試験においては、上記の3項目の力や関心が培われているかを評価する。(選抜の方法・評価の比重については別表を参照)

・入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜(前期日程・学部別入試)

大学入学共通テストによって高等学校の教育課程における教科・科目に関する知識・技能についての基礎的な学力を評価するとともに、個別学力検査では入学後の修学に関連する教科・

科目に関する知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力等について、より深く学力を評価する。（詳細は募集要項を参照）

(2) 一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストによって高等学校の教育課程における教科・科目に関する知識・技能についての基礎的学力を評価するとともに、個別学力検査では小論文を課し、人文科学を学ぶ上で必要な発想力・思考力・判断力・表現力ならびに主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について評価する。（詳細は募集要項を参照）

(3) 帰国生徒選抜

第1次選考では出願書類のうち、資格・成績証明書等によって入学後の修学に必要な中等教育程度の知識・技能に関する基礎的な学力を、推薦書・自己推薦書・諸活動の記録によって思考力・判断力・表現力ならびに主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について、それぞれ評価する。そのうえで、第2次選考では課題論文によって読解力・論理的思考力・問題発見能力・表現力等を、面接によって人間や人間の社会・文化・歴史に対する知的関心の度合い、学ぶことに対する目的意識・意欲、ならびに表現力等を、それぞれ評価する。（詳細は募集要項を参照）

(4) 私費外国人留学生入試

第1次選考では出願書類によって入学後の修学に必要な中等教育程度の知識・技能に関する基礎的な学力を評価する。そのうえで、第2次選考では日本留学試験の受験を要する科目等、TOEFL-iBT、ならびに課題論文によって読解力・論理的思考力・問題発見能力・表現力等を、これに加え面接によって主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、それぞれ評価する。（詳細は募集要項を参照）

【別表：入学者選抜方法（評価方法の比重）】

選抜方法	重点評価項目		
	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力	主体性を持って多様な人々と 協働して学ぶ態度
大学入学共通テスト			
一般選抜（前期）	◎	○	
一般選抜（後期）	◎	○	
個別学力検査等			
一般選抜（前期）	○	◎	
一般選抜（後期）		◎	○
調査書			
一般選抜（前期）			○
一般選抜（後期）			○
成績証明書			
帰国生徒選抜	○		
私費外国人留学生入試	○		

推薦書, 自己推薦書, 諸活動の記録			
帰国生徒選抜		○	○
資格・検定試験の結果等			
帰国生徒選抜	◎	○	
私費外国人留学生入試	◎	○	
課題論文			
帰国生徒選抜	○	◎	
私費外国人留学生入試	○	◎	
面接			
帰国生徒選抜		○	◎
私費外国人留学生入試		○	◎

教育学部

・学部の理念

北海道大学教育学部は、教育学を「人間の科学」と考え、人間の成長や発達を、人と人との関係および人と社会との関係の中で捉えることを追究している。このような人間の科学の確立により、社会の様々な分野で、各人の能力を発揮できる人を育てていくことが、北海道大学教育学部の使命である。

・教育目標

社会の様々な領域で教育の実践と改善に携わるため、人間の科学を担うにふさわしい総合的な知識を習得するとともに、教育を通じて平和な世界の永続的発展に貢献する専門的研究方法を獲得し、実践的教育課題の解決に資する自主的に学ぼうとする人を育成することを目標とする。

・求める学生像

- (1) 本学入学前に高等学校での各教科・科目を幅広く学習し、十分な基礎的学力を有しており、人間の科学を担うにふさわしい総合的な知識・技能を習得しようとする学生。
- (2) 人間の科学を開拓する専門的研究方法を獲得し、その方法に基づき教育課題について広い視野から判断するとともに、論理的に思考し表現して社会に貢献しようとする学生。
- (3) 家族、学校、企業、地域、国際社会などにおける教育問題や人間の成長と発達及びそれを支える活動に関心を持ち、多様な価値観を共有して実践的教育課題の解決に挑もうとする学生。

・入学者選抜の基本方針

		高等学校教育課程における学力の3要素		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
入 試 区 分	一般選抜（前期日程・学部別入試）	大学入学共通テスト 個別学力検査	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査
	一般選抜（後期日程・学部別入試）	大学入学共通テスト 個別学力検査	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査
	帰国生徒選抜	第1次選考（推薦書等） 第2次選考（課題論文）	第2次選考（課題論文・面接）	第2次選考（課題論文・面接）
	私費外国人留学生入試	第1次選考（成績証明書等） 第2次選考（課題論文・面接）	第2次選考（課題論文・面接）	第2次選考（課題論文・面接）
	編入学試験（学部3年次編入）	筆記試験（総合問題） 口述試験	筆記試験（総合問題） 口述試験	口述試験

法学部

・学部の理念

北海道大学法学部は、「社会における多様な利害や価値観の相互対立を調整し、よりよい社会の実現を目指す実践の学問」としての法学・政治学を探求することを理念とし、現実の社会で生じている諸問題の具体的な解決策を検討し、よりよい社会を実現するための制度を設計することを中心課題としている。そのために、質・量ともに全国トップクラスの教員を擁して、少人数での授業を重視した高度できめ細かい教育を行うとともに、法科大学院等への進学をも想定して、法曹等の専門職養成の教育体制を強化している。具体的には、以下の二つのコースを設置している。

- (1) 法専門職コース：基本的な法律についてより重点的に学習し、法知識を前提とした専門職に就くことを目指す
- (2) 総合法政コース：法学・政治学の知識と素養を生かして社会の多様な分野で活躍することを旨とする

・教育目標

幅広い社会科学的知识を踏まえて、法を理解し、法に共感できる市民の育成を目指す。その上で、(1) 法専門職コースでは、法律専門職につくための実定法学の基礎の習得、(2) 総合法政コースでは、多様な領域で活躍できるための法的素養と政策判断力および広い視野と国際感覚の習得、を目指す。

・求める学生像

- (1) 法学・政治学に関する知識・技能を身に付け、法律家や行政官、外交官などの専門職に就いて社会に貢献することのできる学生
- (2) 社会の多様で複雑な問題について多角的な観点から思考することによって適切な判断を行うとともに、それを論理的に表現することによって、問題の解決に進んで取り組むことのできる学生
- (3) 主体性を持って社会の様々な問題に関心を持ち、広く社会の多様な人々の声に耳を傾けて、彼らと協働して学ぶことのできる知的好奇心の旺盛な学生

以上のような学生を育成するために、法学部では、高等学校等の学習において、論理的な考え方、基礎的な表現力・コミュニケーション能力、専門知識を身に付けるために必要な基礎知識を幅広く修得していることを期待する。

・入学者選抜の基本方針

法学部は、上記のような人材を受け入れるため、また多様な学生を確保するため、一般選抜、帰国生徒選抜、私費外国人留学生入試、2年次・3年次編入学試験を行う。

一般選抜では、出願書類にて主体性を持って多様な人々と学ぶ態度を評価し、大学入学共通テスト及び個別学力検査（前期：国語・数学・外国語／後期：小論文）にて知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価し、入学者を選抜する。

帰国生徒選抜では、出願書類で知識・技能を評価し、課題論文及び面接試験で思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と学ぶ態度を評価し、入学者を選抜する。

私費外国人留学生入試では、日本留学試験スコアを含む出願書類で知識・技能を評価し、課題論文および面接試験で思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と学ぶ態度を評価し、入学者を選抜する。

同様の目的から、2年次編入学試験では筆記試験（英語・小論文）、3年次編入学試験では筆記試験（英語・専門科目（法学・政治学））と書類審査を実施する。

経済学部

・学部の理念

北海道大学経済学部の基本的な学問体系は経済学と経営学とから構成される。経済学と経営学は、人間が生きていく上でもっとも適切な社会環境を探求する学問であり、社会のリーダーにとってもっとも大切な知的財産のひとつである。このような考えを具現化するために、北海道大学経済学部では以下の二つの学科を設置している。

- ・経済学科：市場経済がどのような働きをし、どのようにわれわれの生活を豊かにするのか、また逆にどのような格差やひずみを生み出しているのかを理解し、それを補う経済政策を適切に判断できる素養を培うことを目指す
- ・経営学科：現代社会における組織（企業、政府、地方自治体、非営利組織など）の経営現象を分析するために、組織管理の仕組みや組織構成員の対人的相互作用を解明するに必要な能力を習得することを目指す

・教育目標

社会現象に関する幅広い視野を獲得するとともに、経済学や経営学の専門知識を体系的に習得することにより、社会の様々な分野で貢献しうる人材を育成する。

具体的には、以下の学習成果を求める。

(1) 知識・技能

- ・日本語での論文作成能力、プレゼンテーション能力を身につけている。
- ・英語を用いて、多様な背景を持つ人材と意思疎通をすることができる。
- ・情報コミュニケーション技術の利用について高度な能力を身につけている。

(2) 思考力・判断力・表現力等の能力

経済・経営活動の背後にある複雑なメカニズムを想像でき、実践的かつ妥当性の高い複数の解決案を示すことができる。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・自らの意見を他者に正確に伝え、合意を形成することができる。
- ・他者のもつ多様な考え・視点を正確に把握し、建設的な議論を積み重ね、実践的かつ革新的な解決策を示すことができる。
- ・実践的な解を示すとともに、集団に率先して関与するリーダーシップ能力をも身につけている。
- ・地球社会の一員として、広い視野からの最適解を探索でき、自らの持つ知識を社会の問題解決に供することができる。
- ・自己の良心、社会の規範やルールに従って行動できる。

・求める学生像

- ・現代社会が抱えている様々な問題に関心があり、それらを解決することで社会に貢献したいと考えている学生
- ・経済学や経営学の知識を生かして、社会の様々な地域や分野で人的ネットワークを形成したいと考えている学生

(1) 知識・技能

国語・英語・数学の基礎力を学んでいることを期待する。

(2) 思考力・判断力・表現力等の能力

国内外の経済・経営に関する時事に興味をもつとともに、多様な進化を遂げてきた経済社会の歴史を入学前に学習していることを期待する。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な人々と協働する姿勢を学んでいることを期待する。

・ 入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜（前期日程・学部別入試）

大学入学共通テストによって、知識・技能を評価するとともに、個別学力検査では、思考力・判断力・表現力等の能力を評価する。

(2) 一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストによって、知識・技能を評価するとともに、個別学力検査では、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価する。

(3) 帰国生徒選抜

出願書類及び面接によって、知識・技能及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価するとともに課題論文では、思考力・判断力・表現力等の能力を評価する。

(4) 私費外国人留学生入試

出願書類及び面接によって、知識・技能及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価するとともに課題論文では、思考力・判断力・表現力等の能力を評価する。

評価方法の比重

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜 (前期日程)	◎ 大学入学共通テスト	◎ 個別学力検査(国語, 数学, 外国語)	
一般選抜 (後期日程)	◎ 大学入学共通テスト	◎ 個別学力検査(小論文)	◎ 個別学力検査(小論文)
帰国生徒選抜	○ 資格・成績証明書 ◎ 面接	◎ 課題論文	○ 推薦書 ○ 自己推薦書 ○ 諸活動の記録 ◎ 面接
私費外国人留学生入試	○ 日本留学試験, TOEFL 等の英語能力 検定試験, 最終修了学 校の成績証明書等の 結果 ◎ 面接	◎ 課題論文	◎ 面接

※◎：重視する要素，○：総合的な判断となる要素

北海道大学理学部 入学者選抜の基本方針(評価方法の比重)

入試区分	評価方法等	学力の3要素		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜 後期日程	出願書類等	総合的に判断する要素		
	共通テスト	◎	○	
	個別学力検査	◎	◎	
フロンティア入試 Type I 〔地球惑星科学 科〕	出願書類等		○	◎
	適性試験	◎	◎	
	共通テスト	◎	○	
	面接	○	◎	◎
フロンティア入試 Type II 〔数学科〕	出願書類等	○	○	
	適性試験	◎	◎	
	面接	◎	◎	
フロンティア入試 Type II 〔物理学科〕	出願書類等	○	○	
	適性試験	◎	◎	
	面接	○	◎	
フロンティア入試 Type II 〔化学科〕	出願書類等	○	◎	○
	適性試験	◎	○	
	面接		◎	
フロンティア入試 Type II 〔生物科学科高 分子機能学専 修〕	出願書類等	総合的に判断する要素		
	適性試験	◎	◎	
	面接	○	◎	◎
帰国生徒選抜	出願書類等		○	◎
	適性試験 (数学科, 物理学科, 化学科) 総合問題 (生物科学科生物学専修分野, 生物科学科高分子機能学専修分 野, 地球惑星科学科)	◎	◎	
	面接	○	◎	◎
私費外国人留 学生入試	出願書類等	○	○	◎
	適性試験 (数学科, 物理学科, 化学科) 総合問題 (生物科学科生物学専修分野, 生物科学科高分子機能学専修分 野, 地球惑星科学科)	◎	◎	
	面接	○	◎	◎

◎:特に重視する項目, ○:重視する項目

理学部

・学部の理念

北海道大学理学部は、自然界を支配する基礎的な法則や理論・原理を学び、様々な自然現象の真理を解明することを理念としている。今われわれの生活を支えている様々な便利さや高度に発達した文化・文明、並びにこれらを支える世界観は、自然現象に対する純粋な知的好奇心に基づく基礎自然科学、つまり理学から生まれてきたものである。

したがって、北海道大学理学部は、基礎自然科学の発展を支える優れた研究者を育成するとともに、科学的な思考に基づき社会に貢献する人材を育成することが使命であると考え、基礎自然科学に関する以下の五つの主要分野の教育を行う。

- ・**数学科**：代数・幾何・解析の基本を学び、それを基にそれぞれの領域の専門知識を学ぶ
- ・**物理学科**：素粒子から宇宙に至る諸々の物質のことわり（理）や自然現象の基礎的原理を学ぶとともに、新たな普遍法則を探り、また、科学全体の発展を考察する
- ・**化学科**：広範な現象や物質の構造・性質・変換過程を分子や分子集合体のレベルで理解するとともに、分子を自在に操り所望の物質を作り出す
- ・**生物科学科**：幅広い生物科学分野を2つの専修分野（生物学・高分子機能学）から学ぶ。生物学では多種多様な生物を対象とし、分子や遺伝子の働き、生物と自然との関わりなど、生物の営みの基本にある原理や新しい真理を探る。高分子機能学では機能性高分子と呼ばれる新しい特性と機能をもったバイオ新素材や医薬などの開発およびこれらの生命分子の特性を解析する
- ・**地球惑星科学科**：地球や惑星における自然のメカニズムを解き明かすとともに、自然環境の問題や資源の確保、災害の軽減に関する基礎的な研究を行う。また、地球や惑星上に起こる様々な自然現象を物理的に解明し、環境科学の基礎研究としての役割ももつ。

・教育目標

それぞれの専門分野に進むための幅広い自然科学の知識を習得するとともに、獲得した知識を演習や実験・実習などを通して実践できる能力を育成する。

・求める学生像

- ・自然に関心をもち、自然現象のメカニズムを解明したいと考えている学生・物事を論理的に説明したいと考えている学生
〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，関心・意欲〕
- ・時流に流されることのない真理を探究したいと考えている学生
〔求める要素：思考力・判断力・表現力，関心・意欲〕
- ・観察や実験が好きで、納得が行くまで観察や実験を続けたいと考えている学生
〔求める要素：知識・技能，主体性・協働性，関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

数学・理科:本学部における専門分野（数学・物理学・化学・生物学・地球惑星科学）
を学ぶ為に必要とされる基礎的知識及び技能，思考力

国語・英語:読解力，表現力，コミュニケーション能力

・ 入学者選抜の基本方針

- ・ 一般選抜（後期日程）：大学入学共通テスト及び個別学力検査により、「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力」を特に重視して評価する。併せて，出願書類により「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を含めて総合的に評価し，入学者を選抜する。

・ フロンティア入試Type I：

〔地球惑星科学科〕出願書類により「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を，総合問題により「科学的基礎知識，論理性，判断力」を，面接により「意欲，目的意識，論理的思考力」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

・ フロンティア入試Type II：

〔数学科〕出願書類により総合的に判断し一次選考を実施した上で，二次選考において適性試験により「基礎的な知識及び技能の他，思考力及び判断力」を，面接により「数学的な考察力，論理的思考力，説明能力及び数学に関わる諸科学の修学への姿勢・意欲」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

〔物理学科〕出願書類により総合的に判断し一次選考を実施した上で，二次選考において適性試験により「基礎的な知識及び技能の他，思考力及び判断力」を，面接により「物理の内容に関する議論を通して論理の展開，表現，会話力及び英語の能力」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

〔化学科〕出願書類により総合的に判断し一次選考を実施した上で，二次選考において適性試験により「基礎的な知識及び技能の他，思考力及び判断力」を，面接により「化学に関する思考力と判断力，及びコミュニケーション能力」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

〔生物科学科高分子機能学専修〕出願書類により総合的に判断し一次選考を実施した上で，二次選考において適性試験により「基礎的な知識及び技能の他，思考力及び判断力」を，面接により「主体的な行動を起こす力や新しいものごとにチャレンジする強い意欲」，「英語4技能」，及び「生命科学に対する情熱と準備状況等」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

- ・ 帰国生徒選抜：出願書類により「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を，適性試験（数学科，物理学科及び化学科）または総合問題（生物科学科生物学専修分野，生物科学科高分子機能学専修分野及び地球惑星科学科）により「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力」を，面接により「思考力・判断力・表現力」，「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

- ・ 私費外国人留学生入試：出願書類により「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を，適性試験（数学科，物理学科及び化学科）または総合問題（生物科学科生物学専修分野，生物科学科高分子機能学専修分野及び地球惑星科学科）により「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力」を，面接により「思考力・判断力・表現力」，「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を特に重視して評価し，入学者を選抜する。

なお，選抜ごとの評価方法の比重については別紙のとおりとする。

医学部

医学科

・理念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する。

・教育目標

広範な医学知識、高い倫理観、豊かな人間性、国際的視野を備え、医学の進歩と医療の実践・発展に寄与する医師・医学研究者を養成する。

・求める学生像

(1) 知識・技能

強い学習意欲と多様な科目を履修していく基礎学力をもつ学生

(2) 思考力・判断力・表現力

多様な事象に対し興味、理解力を持ち、共感とともに批判する能力をもつ学生

(3) 主体性・多様性・協働性

積極性、堅実性ととも他者との協調性をもつ学生

(4) 使命感

高い倫理観と強い責任感、そして敬虔な奉仕の精神を持ち、謙虚で高潔な使命感にあふれる学生

・入学前に学習しておくことが期待される内容

医学を学ぶ上で、高等学校で学ぶ各教科において基礎学力を幅広く身につけることが必要となる。特に理科、数学、英語を十分に学習すること。

さらに、幅広い視野と国際的な視点を持ち、人間性を高めるためのたゆまぬ自己研鑽をすること。

・入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜（前期日程・学部別入試）では、大学入学共通テスト及び個別学力検査により知識・技能を評価し、個別学力検査及び面接により、思考力・判断力・表現力を評価し、面接により主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、使命感を評価し、入学者を選抜する。

(2) フロンティア入試（総合型選抜）Type I では、大学入学共通テストにより知識・技能を評価し、コンピテンシー評価及び面接により思考力・判断力・表現力を評価し、調査書、コンピテンシー

評価及び面接により主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度，使命感を評価し，入学者を選抜する。

(3) 帰国生徒選抜では，英語外部試験，資格・成績証明書及び面接により知識・技能を評価し，自己推薦書及び課題論文より思考力・判断力・表現力を評価し，諸活動の記録及び面接により主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度，使命感を評価し，入学者を選抜する。

(4) 私費外国人留学生入試では，英語外部試験，日本語能力試験及び面接により知識・技能を評価し，課題論文により思考力・判断力・表現力を評価し，面接により主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度，使命感を評価し，入学者を選抜する。

(5) 医学部医学科学士編入学（第2年次）では，英語外部試験及び生命科学総合問題により知識・技能を評価し，課題論文により思考力・判断力・表現力を評価し，面接及び志望理由書により主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度，使命感を評価し，入学者を選抜する。

《入学者選抜評価方法と求める学生像との関係性及び評価比重》

求める学生像を評価する方法を「✓」で示しています。

入試区分	評価方法	評価 比重	求める学生像(1) 知識・技能	求める学生像(2) 思考力・判断力・ 表現力	求める学生像(3) 主体性・多様性・ 協働性	求める学生像(4) 使命感
一般選抜(前期日程)	大学入学共通テスト	○	✓			
	個別学力検査	○	✓	✓		
	面接	○		✓	✓	✓
総合型選抜	大学入学共通テスト	○	✓			
	調査書	◎			✓	✓
	コンピテンシー評価	◎		✓	✓	✓
	面接	◎		✓	✓	✓
帰国生徒選抜	英語外部試験	○	✓			
	資格・成績証明書	○	✓			
	面接	○	✓		✓	✓
	自己推薦書	○		✓		
	課題論文	○		✓		
	諸活動の記録	○			✓	✓
私費外国人留学生入試	英語外部試験	○	✓			
	日本語試験	○	✓			
	課題論文	◎		✓		
	面接	◎	✓		✓	✓

医学部医学科学士編入学 (第2年次)	英語外部試験	◎	✓			
	生命科学総合問題	◎	✓			
	課題論文	○		✓		
	面接	◎			✓	✓
	志望理由書	◎			✓	✓

注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素

保健学科

・理念

先端的な保健・医療を推進し、豊かな人間性と高い倫理観を有する保健医療従事者及び研究志向を有する人材を育成することにより、人類の健康と福祉に貢献する。

・教育目標

保健・医療がめざましく進化しつつある今日において、高度に専門分化した知識と技術の習得とともにグローバル社会における保健福祉の課題を見据え、臨床的な探求心、高い倫理観、豊かな人間性、国際的視野及び社会的責任感を備え、保健医療の実践と発展に寄与する看護師や診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、さらに研究志向を有する人材を養成する。

・求める学生像

(1) 知識・技能

広範な基礎知識及び専門知識を身につけるために必要な基礎学力・技能を有している学生

(2) 思考力・判断力・表現力

多様化・複雑化する課題を発見し、その本質を分析・判断・解決する能力をもつ学生

(3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

課題解決に必要な情報を収集し多様化する価値観の中で他者と協働しながら目標を達成することができる学生

(4) 倫理観・感性

高い倫理観を持ち、他人の痛みを理解できる感性豊かで人間性あふれる学生

・入学前に学習しておくことが期待される内容

理科、数学、英語は保健医療従事者として必要な高度な知識を学ぶために必要な基礎となる学問であり、国際性、幅広い視点、コミュニケーション能力も重要となるので、高等学校で学ぶ各教科において基礎学力を幅広く身につけることが必要となる。

・入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜（前期日程・学部別入試）では、大学入学共通テスト及び個別学力検査により知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価し、入学者を選抜する。

(2) フロンティア入試（総合型選抜）Type I では、大学入学共通テストにより知識・技能を評価し、調査書及びコンピテンシー評価と面接によって思考力・判断力・表現力及び主体性・多様性・協働性、そして多様な人々と協働して学ぶ態度や使命感を評価し、入学者を選抜する。

(3) 帰国子女入試では、資格・成績証明書及び面接により知識・技能を評価する。自己推薦書及び課題論文より思考力・判断力・表現力を評価し、諸活動の記録及び面接により主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度や使命感を評価し、入学者を選抜する。

(4) 私費外国人留学生入試では、英語外部試験、日本語能力試験及び面接により知識・技能を評価する。小論文により思考力・判断力・表現力を、面接では主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度や使命感を評価し、入学者を選抜する。

入学者選抜評価方法と求める学生像との関係性及び評価方法の比重

※◎は特に重視する要素、○は重視する要素

入試区分	評価方法	求める学生像			
		(1) 知識・技能	(2) 思考力・判断力・表現力	(3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度	(4) 倫理観・感性
一般選抜（前期日程）	大学入学共通テスト	○			
	個別学力検査	○	○	○	○
総合型選抜	大学入学共通テスト	○			
	調査書			◎	◎
	コンピテンシー評価 面接		◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎
帰国子女入試	資格・成績証明書	○			
	面接	○	◎	◎	◎
	自己推薦書		○		
	課題論文 諸活動の記録		◎		
私費外国人留学生入試	英語外部試験	○			
	日本留学試験	○			
	小論文		◎		
	面接	◎	◎	○	◎

歯学部

・学部の理念

北海道大学歯学部は、口腔の健康管理を通して心身の健康管理に寄与し、それぞれの人の生活の質を上げていくために学問としての歯学に取り組み、その成果を通じて人類の健康と福祉に貢献することを理念とする。

・教育目標

歯科医療の高度化と専門化及び高齢化の進む社会において、国民の期待に応えることのできる歯科医師の育成を目指す。そのために歯学に必要な専門的な知識・技能及び態度、そしてそれらを用いて歯学に関わる問題の解決を図るために必要な思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協調性・プロフェッショナリズムの習得を目標とする。

基礎教育期、専門教育期、総合教育期の三期に分けて教育に取り組む。基礎教育期では、教養科目及び基礎科目を幅広く学ぶことにより、医療人としてのプロフェッショナリズム・倫理観の獲得や人間性の向上を目指す。専門教育期では、歯学や歯科医療に関する専門的な知識と技術を習得する。最後の総合教育期では、臨床実習を通じて習得した知識・技術、及び態度を実践し、現実に役に立つ知識・技術、態度を獲得することを目指すとともに、一般医学全般についても学ぶことにより、より広い視点から歯学や歯科医学を捉えなおすことを目指す。なお、これら三期は独立したものではなく、おのおのマイルストーンを設けてスパイラルに醸成されることを目指す。

獲得した知識・技能・態度、思考力・判断力・表現力・プロフェッショナリズム等により、高度化と専門化及び高齢化のすすむ歯科医療を様々な分野の人々と協調性を持って主体的に実践できること、もしくは実践するための手段を主体的に構築し獲得できること、加えて歯学に関わる様々な問題を研究や教育も視野に入れて多様性を持って解決するための手段を構築できるようになることを求める成果とする。

・求める学生像

- (1) 歯学部の基礎教育期、専門教育期、総合教育期で教育される広範な基礎知識及び専門知識を身につけるための、数学・理科・外国語を中心とした高等学校レベルの十分な知識・技能を身につけており、かつ同時に多数の教科を学ぶことのできる柔軟な学習能力を持った学生
- (2) 身につけた知識・技能を用いて初歩的な歯学的問題を解決しそれを説明するために、十分な思考力・判断力・表現力を身につけている学生
- (3) 歯科医学の発展に寄与したいと考えている学生。そのために多様な人々と協調して問題解決したいと考える学生。
- (4) 歯科医療を通して人の生活の質を向上させることに主体的に奉仕したいと考えている学生
- (5) 歯科医療に関する専門的な知識や技術を習得するだけでなく、医療人としての倫理観や

高い人間性を主体的に、多様な人々と協調して獲得したいと考えている学生

・入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストによって基礎的学力をみるとともに、個別学力検査では、数学・外国語・理科（物理・化学・生物から2科目）の出題と面接を実施し、学問的向上心、総合的判断力および将来の歯科医師としての適性を評価する。

(2) 総合型選抜（フロンティア入試 Type I）

調査書、コンピテンシー評価により、目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、課題論文で読解力、論理的思考力を、また面接で積極性、表現力、論理性、協調性、適性を評価し、あわせて大学入学共通テストにより基礎学力を問うことで、学問的向上心、総合的判断力および将来の歯科医師としての適性を評価する。

(3) 帰国生徒選抜

資格・成績証明書等、推薦書、自己推薦書、諸活動の記録により、目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、課題論文で読解力、論理的思考力を、また面接で意欲、表現力、論理性、協調性及び理科（物理・化学・生物から2科目）の理解度を問うことで、学問的向上心、総合的判断力および将来の歯科医師としての適性を評価する。

(4) 私費外国人留学生（学部）入試

日本語留学試験及び英語能力検定試験の成績により基礎学力を評価し、課題論文及び面接で日本語学力、大学教育を受けるために必要な基礎学力、論理的思考力等を問うことで、学問的向上心、総合的判断力および将来の歯科医師としての適性を評価する。

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜 （前期日程）	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査 数学・外国語・理科（物理・化学・生物から2科目）	○	面接・調査書
総合型選抜 （Type I）	○	大学入学共通テスト	◎	課題論文・ コンピテンシー評価	◎	面接
帰国生徒 選抜	○	成績証明書等・面接	◎	課題論文	◎	面接・諸活動の記録等
私費外国人 留学生入試	☆	成績証明書等・ 日本語留学試験	○	課題論文	◎	面接

（注）◎は特に重視する要素，○は重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

薬学部

・学部の理念

北海道大学薬学部は薬学を有機化学、生物化学及び物理化学を基礎として、生命科学、創薬科学及び医療薬学を総合的に理解し、研究活動または医療現場における薬剤師としての活動に活かすことで、国民の福祉に貢献し、医療へ還元する人材を養成することを目指している。このため、北海道大学薬学部は4年制の薬科学科と6年制の薬学科を設置し、それぞれ生命科学、創薬科学の研究者・技術者の養成及び研究心豊かな先導的薬剤師、医療薬学・臨床薬学者の養成を目的としている。

・教育目標

人文・社会科学的な素養を修得するとともに、生命現象、分子の性質と相互作用、化合物の構造解析や合成といった基礎を生物化学、物理化学、有機化学を通して学修する。

薬科学科では、生物化学、物理化学、有機化学を基礎として、分子・細胞から個体レベルにわたる生命科学を統一的に学修し、知識や技術の修得を行う。1.5年間の卒業研究及び演習によって、研究遂行能力とともに、思考力・判断力・表現力の育成、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成を行う。

薬学科では、医療科学、健康科学の知識や理論を統一的に学ぶとともに、医療薬学、臨床薬学に関する高度な知識や技術の修得を行う。さらに、22週（病院11週＋薬局11週）の実務実習、1.5年間の卒業研究を通して、倫理観、コミュニケーション力、責任感を持ち、主体性を持って多様な人々と協働しながら問題発見能力、問題解決能力を発揮する薬剤師ないし医療薬学・臨床薬学者になるための教育を展開する。

・求める学生像

本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

薬科学科

高等学校卒業レベルの数学、英語、国語の基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に理科に高い学力を有する学生

生命科学や創薬科学の研究または医療薬学や医療薬学研究を通じて社会に貢献したいと考えている学生

大学院に進学して最先端の創薬科学を学び、国際的にも活躍できる創薬研究者・技術者を志す学生

薬学科

高等学校卒業レベルの数学、英語、国語の基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に理科に高い学力を有する学生

医療現場や医療薬学教育の場において、先導的な薬剤師・教育者として活躍したいと考えている学生

高度な知識と技術を身につけ、チーム医療の中で科学的観点から意見が言える専門性の高い薬剤師を志す学生

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は以下のとおりです。

入学後に生命科学、創薬科学、医療科学に関する基礎的知識、技能及び態度を修得するために、高等学校段階での基本的な学力を幅広くきちんと身につけておく必要があります。特に数学・英語・理科の高い学力の修得に励むことを求めます。

・ 入学者選抜の基本方針

一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストによって基礎的学力をみるとともに、個別学力検査では理科のみを課し、物理・化学・生物のうちから2科目を選択させ、理科についての広範な理解力を評価する。

帰国生徒選抜

第1次選考では資格・成績証明書等、推薦書、自己推薦書により選考を行う。第1次選考に合格した者に対して、総合問題を課し、基礎的な科学的知識、論理的思考力、語学力を問うとともに、面接によって意欲、目的意識、積極性、論理性を問う。

私費外国人留学生入試

第1次選考では出願書類により選考を行う。第1次選考に合格した者に対して、総合問題を課し、基礎的な科学的知識、論理的思考力、語学力を問うとともに、面接によって意欲、目的意識、積極性、論理性を問う。第2次選考の実施科目等、日本留学試験及び最終修了学校の成績証明書等の結果を総合して選考を行う。

評価方法の比重

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜 (後期日程)	○ 大学入学共通テスト 個別学力検査(理科)	◎ 個別学力検査(理科)	☆ 調査書
帰国生徒 選抜	○ 総合問題 英語検定試験の成績 最終修了学校の成績	◎ 総合問題 面接	☆ 面接 推薦書・自己推薦書
私費外国人 留学生入試	☆ 日本留学試験成績 英語検定試験の成績 最終修了学校の成績	◎ 総合問題 面接	○ 面接

(注) ◎は特に重視する要素，○は重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

工学部

・学部の理念

北海道大学工学部は、人類の生活をより快適に、より豊かにするために、学問としての工学に取り組み、その成果を通じて社会に貢献することを基本理念としている。また、次の3点を教育および研究を通じて実現することを使命としている。

- (1) 社会から信頼される科学技術の創造を通して安全で安心できる社会の実現
- (2) 環境調和型・資源循環型・高度情報化社会への変換を支える技術革新への挑戦に基づく社会への貢献
- (3) 工学にかかわる新しい学問分野の創造への貢献

・教育目標

社会と環境に責任を持てる技術者および工学研究者の育成を目指すとともに、技術革新に果敢に挑戦し、新たな産業と文明を拓く高度職業人の育成を目指す。そのために、人類の発展に必要な科学と技術に関する専門的な知識・技能、そしてそれらを用いて実際に社会で生じている様々な問題の解決を図るために必要な思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性の習得を目標とする。教養教育では様々な観点から物事を捉えられる幅広い教養の習得に重点を置き、専門教育では、学部共通、学科共通、コース専門の三つの分野に分かれて広い視野からの専門性の高い学習成果を追求する。

・求める学生像

- (1) 工学部のそれぞれの専門分野における専門知識のみならず、専門分野以外における広範で基礎的な専門知識を身につけるための、数学・理科・外国語を中心とした高等学校レベルの十分な知識・技能を身につけた学生
- (2) 身につけた知識・技能を用いて初歩的な工学的問題を解決しそれを説明するための、十分な思考力・判断力・表現力を身につけた学生
- (3) 身につけた専門知識を利用した具体的なモノづくりや、高度な科学・情報処理の原理に基づく応用技術に自ら関心を持ち、実際に社会で生じている様々な問題について、多様な人達と協働して解決したいと考えている学生

・入学者選抜の基本方針

- (1) 一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストによって基礎的学力をみるとともに、数学と理科1科目を課し、専門に得意な能力・資質を重点的に評価する。
- (2) 総合型選抜（「フロンティア入試 Type I」 応用理工系学科_応用マテリアル工学コース）

調査書、コンピテンシー評価、自己推薦書、諸活動の記録により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、課題論文及び面接により、正確な科学的知識、論理的思考力、洞察

力、作文能力を評価し、あわせて大学入学共通テストにより基礎的学力を問う。

(3) 総合型選抜（「フロンティア入試 Type I」環境社会工学科_社会基盤学コース）

調査書、コンピテンシー評価、自己推薦書、英語能力、諸活動の記録により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、課題論文で正確な科学的知識、論理的思考力、洞察力、作文能力を、また面接で意欲、目的意識、実行力、適性を評価し、あわせて大学入学共通テストにより基礎的学力を問う。

(4) 総合型選抜（「フロンティア入試 Type II」応用理工系学科_応用物理工学コース）

物理学の基本原理・法則の探求に加え、実社会に必要とされる技術の創出と開発、物理学的視点に基づいた新しい科学領域の創成に資する人材の育成を念頭に、調査書、自己推薦書により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、適性試験で基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価し、面接でコミュニケーション能力、目的意識の高さ、等を問う。

(5) 総合型選抜（「フロンティア入試 Type II」機械知能工学科）

調査書、個人評価書、自己推薦書により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、適性試験で数学、物理、化学に関する基礎学力を問い、面接で意欲、目的意識、協調性及びコミュニケーション能力等を問う。

(6) 総合型選抜（「フロンティア入試 Type II」環境社会工学科_環境工学コース）

調査書、個人評価書、自己推薦書により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、適性試験で基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価し、面接でこれまでの活動や勉学への意欲、大学生活への抱負、将来の目標などを問いながら、主体的な行動を起こす力や新しいものごとにチャレンジする強い意欲やコミュニケーション能力を評価する。

(7) 帰国生徒選抜

資格・成績証明書等及び自己推薦書により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、課題論文では科学技術を素材にして、論理的思考力、洞察力、表現能力を問い、面接で意欲、目的意識、実行力、基礎学力等を問う。

(8) 私費外国人留学生（学部）入試

資格・成績証明書等及び志望理由書により目的意識、意欲、実行力、適性をみるとともに、日本留学試験及び英語能力検定試験の成績により基礎学力を評価し、面接で志望するコースにおける大学教育を受けるのに必要な基礎学力、日本語学力及び論理的思考力等を問う。

●各選抜区分における評価方法間の比重について

入学者選抜区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜（後期日程）	○大学入学共通テスト	◎個別学力検査	☆調査書
フロンティア入試 Type I（応用理工系学科 応用マテリアル工学コース）	○大学入学共通テスト	◎課題論文	◎面接，調査書
フロンティア入試 Type I（環境社会工学科 社会基盤学コース）	○大学入学共通テスト	◎課題論文	◎面接，調査書
フロンティア入試 Type II（応用理工系学科 応用物理工学コース）	◎適性試験	◎適性試験	○面接，調査書
フロンティア入試 Type II（機械知能工学科）	◎適性試験	◎適性試験	○面接，調査書
フロンティア入試 Type II（環境社会工学科 環境工学コース）	◎適性試験	◎適性試験	○面接，調査書
帰国生徒選抜	○資格・成績証明書，面接	◎課題論文	◎面接
私費外国人留学生（学部）入試	○日本留学試験，英語能力検定試験の成績	◎面接	◎面接

（注）◎は特に重視する要素，○は重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

農学部

・学部の理念

北海道大学農学部には、札幌農学校の開校時の教頭であった W. S. クラーク博士によって唱道された全人教育と、北海道開発の人材養成を目的とした実学主義の理念が、その後 130 年以上を経た今日も脈打っている。増え続ける人口に起因する食料の不足、急増する資源・エネルギーの消費と環境汚染の激化、自然生態系の破壊と生物多様性の喪失など、人類の生存を脅かす諸問題を解決するために、北海道大学農学部は豊かな人間性に富み農学の専門的知識と課題解決能力をもった人材の育成を目標としている。現代の農学には、純粋科学の方向にそって分化発展しつづける分野と、それらの成果を統合して技術化する応用科学的な分野とがある。本学部はこれら二極化する諸科学を統括し、総合科学としての農学の体系的な教育と研究を行うことを目指している。

・教育目標

社会から要求されている生物生産と環境との調和に対応できる広い視野を養うこと、食料・資源・エネルギー・環境など人類の生存にとって重要な問題の解決に取り組む意欲を高めること、および生物生産の状況変化に即応できる高度な専門性を身につけることを目標とする。これにより農学の重要性を理解し、地球的な課題に挑戦する大志と気概をもって農林業の持続的発展と関連産業に寄与し得る人材の育成を目指す。

・求める学生像

- ・基礎生物学と応用生物学をつなぐ研究を志す学生
- ・環境と生物の相互作用ならびにフィールドサイエンスに興味のある学生
- ・自然環境保全とリサイクル型の資源利用に関心のある学生
- ・バイオサイエンスやバイオテクノロジーを学びたい学生
- ・食料生産技術を通じて社会に貢献する意欲のある学生

教育目標に記載の教育を受けるために、入学者には以下のような学生像を求めます。

1. 知識・技能

農学の広範な分野を俯瞰するための基礎知識と、専門の学修につながる基礎学力を、高等学校での学習内容を幅広く十分に修得して身に付けている学生。

2. 思考力・判断力・表現力

知識・情報を収集し、批判的姿勢でこれを評価し、整理統合して卒業論文などにまとめて新たに発信するための論理的思考力と言語能力の基礎を身に付けている学生。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

大学での学修や卒業研究に必須の素養として、自ら課題を見つけて主体的に行動でき、また多様な相手とともに取り組むことができる学生。

4. 強い知的探求心と問題解決意欲

生物生産、食料、資源とエネルギー、環境などの農学領域に対する知的関心や問題意

識を持ち、高い倫理性と責任感を持って取り組む意欲のある学生。

従って、入学する学生には、高等学校における学習内容を幅広く修得していることが期待されます。

- ・理科については、農学領域に共通する専門基礎として十分な理解が必要です。
- ・国語・数学は、論理的思考に必須の基礎科目であり、また国語・英語は情報収集・発信およびコミュニケーションに必須の科目であり、いずれも十分な修得が必要です。
- ・社会およびその他科目は、広範な農学分野を俯瞰でき、また広い視野を持つために必須である教養を大学で修得する助けになります。

・入学者選抜の基本方針

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜 (後期日程)	○	大学入学共通テスト	○	個別学力検査 (理科2科目)	☆	調査書
帰国生徒選抜	○	資格・成績証明書等 推薦書 自己推薦書 諸活動の記録	◎	課題論文	◎	面接
私費外国人 留学生入試	☆	日本留学試験 成績証明書等 英語能力検定試験	◎	課題論文 面接	◎	面接

獣医学部

・学部の理念

北海道大学獣医学部は、地球上の全ての動物生命に責任を負う自然科学としての獣医学を背景に、動物の病気の診断・治療・予防にとどまらず、アニマルウェルフェアに配慮した愛護精神の啓発、安全な動物性食品の供給、医薬品の開発、生物科学への貢献、野生動物の保護・管理と人獣共通感染症の制圧など、獣医学に対する社会の多様な要請に応えうる獣医師を養成することを理念としている。

・教育目標

本学部は、動物の健康の保持増進、公衆衛生の向上、食の安全及び生命科学の発展に寄与するために、獣医学に関する専門的な知識及び技術を教授することにより、豊かな人間性、高い生命倫理観及び国際的視野を備えた獣医師及び獣医学に関する創造性を有する研究者を養成する。

- ① 獣医師としての任務を遂行するための論理性及び倫理性に裏打ちされた思考力・判断力・表現力を身につけることができる。
- ② 動物疾病の予防・診断・治療、動物の健康の維持増進、公衆衛生等に関する卓越した知識・技能を持つことができる。
- ③ 安定的な食料供給、家畜及び畜産物の安全確保、人獣共通感染症対策など地球規模の課題の解決に貢献するための国際的視点と知識・技能を持つことができる。
- ④ 最先端の生命科学研究に触れ、生命現象に関する新たな発見や医薬品の開発などにおいて獣医学を基礎とした課題解決能力と国際的な活動を実践する能力および主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけることができる。

・求める学生像

(1) 知識・技能

- ・獣医学を学び理解できる基礎学力を有する学生
- ・社会の倫理的問題に知的好奇心を持つ学生

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・動物を愛するとともに、動物を科学的視点から客観的に観察・思考することのできる学生
- ・生命現象に対して、畏敬の気持ちと科学的な探究心をもつ学生
- ・動物に関する課題を科学的に判断し、表現できる学生

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・獣医学を通じて主体的に社会貢献したいと考える学生
- ・獣医学に関わる国内・国際的問題を多様な人々と協働して解決したいと考える学生

(4) 入学前に学習しておくことが期待される内容

- ・ 獣医学を学び理解するのに必要な理系科目の学習
- ・ グローバルな課題を理解するのに必要な英語の学習

・ 入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜（前期日程・学部別入試）

志願者が多い場合、適切な個別学力検査等を行うことが極めて困難となるため、本学所定の資格要件を備えている者について、大学入学共通テストの成績により第1段階選抜（募集人員：20名、倍率：6.0倍以内）を行い、個別学力検査等の受験者を決定します。個別学力検査では、数学・外国語・理科（物理・化学・生物から2科目）を出題し、総合的な学力を判定します。

(2) 一般選抜（後期）

志願者が多い場合、適切な個別学力検査等を行うことが極めて困難となるため、獣医学部の資格要件を備えている者について、大学入学共通テストの成績により第1段階選抜（募集人員：15名、倍率：6.0倍以内）を行い、個別学力検査等の受験者を決定します。個別学力検査では、理科（物理・化学・生物から2科目）の出題と面接（口述試験）を実施し、総合的な学力を判定します。

(3) フロンティア入試 Type I

獣医学部では、動物医科学の分野において、先端研究を国際的な場で推進できる人材を育成することを目指し、研究マインドが極めて高く、かつ総合的な学力が高い学生を選抜することを目的としてフロンティア入試 Type I を実施します。第1次選考では、出願書類により選考を行います。第2次選考では、課題論文及び面接により選考を行います。第2次選考合格者のうち、大学入学共通テストの基準点を満たした者を最終合格者とします。

(4) 帰国生徒選抜

日本国籍をもっている者、または日本国の永住許可を得ている者で、海外に住み、外国の学校で教育を受け、一定の基礎資格・要件（12年の課程を修了（見込み）又は同等の学力）を備えた者を対象にします。獣医学部では、募集人員は学部別入試の後期日程試験の内数として実施します。第1次選考では、出願書類により選考を行います。第2次選考では、総合問題および面接（口述試験）により選考を行い、総合的な学力を判定します。

(5) 私費外国人留学生入試

日本の国籍を持たず、かつ、日本国の永住許可を得ていない者で、日本留学試験を受け、一定の基礎資格・要件を備えた者を対象にします。獣医学部では、募集人員は学部別入試の後期日程試験の内数として実施します。第1次選考では、出願書類により選考します。第2次選考では、総合問題および面接（口述試験）により選考を行い、総合的な学力を判定します。

選抜に活用する内容

評価方法	該当選抜区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性
大学入学共通テスト	一般（前期日程） 一般（後期日程） フロンティア入試 Type I	○ ○ ○		
個別学力検査	一般（前期日程） 一般（後期日程） 帰国生徒選抜 私費外国人入試	○ ○ ○ ○	○	
調査書	一般（後期日程） 帰国生徒選抜 フロンティア入試 Type I	○ ○ ○	○	○ ○ ○
面接	一般（後期日程） 帰国生徒選抜 フロンティア入試 Type I 私費外国人入試	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
面接カード	一般（後期日程） 帰国生徒選抜 私費外国人入試			○ ○ ○

選抜に活用する内容の重点評価項目

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性
大学入学共通テスト	◎	○	
一般選抜(前期日程・学部別入試)	○	◎	
一般選抜(後期日程)		○	◎
フロンティア入試 Type I	○	○	○
帰国生徒選抜	○	○	○
私費外国人留学生入試	○	○	○

(注) ◎は特に重視する要素

水産学部

・学部の理念

水産学部は、水圏生物資源の持続的生産と総合的な利用、および環境の保全を目指した体系的な水産科学教育により、人類社会の繁栄へ貢献することを理念とする。

・教育目標

1. 「海洋・環境・生物・資源」などの水産科学や関連する広範な学問分野の学修を通じて、人類の生存と繁栄に寄与しうる創造的人材の育成
2. 水圏生物資源の持続的生産を可能にする地球規模での環境保全と生産の調和についての知識を有する意欲的・国際的人材の育成
3. 水圏生物資源の総合的な利用を通じて社会への貢献を行いうる指導的人材の育成

・求める学生像

1. 水圏の環境や生物・資源に強い関心があり、水圏環境と生物生産の調和を目指して社会に貢献する意欲のある学生
2. 水圏生物やその成分の機能を学び、水圏生物資源を合理的な方法で利用することで、健全な人類の発展を目指して社会に貢献する意欲のある学生
3. 将来、海洋・水産・環境分野における政策、管理などに関する国内外の機関やプロジェクトに参加して活躍する意欲のある学生

<求める学生像と求める学習成果（学力の3要素）の対応関係>

求める学生像	求める学習成果(学力の3要素)		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
1. 水圏の環境や生物・資源に強い関心があり、水圏環境と生物生産の調和を目指して社会に貢献する意欲のある学生	◎	◎	○
2. 水圏生物やその成分の機能を学び、水圏生物資源を合理的な方法で利用することで、健全な人類の発展を目指して社会に貢献する意欲のある学生	◎	◎	○
3. 将来、海洋・水産・環境分野における政策、管理などに関する国内外の機関やプロジェクトに参加して活躍する意欲のある学生	○	○	◎

※◎：特に重視する要素， ○：重視する要素

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

- ・数学および理科は、水産科学に関する専門知識を学ぶための基礎として必要な学問であるため、高等学校段階の内容を十分に理解しておくことが求められる。
- ・国語および外国語（英語）は、自分の考えを表現する力、学術論文等を読み解く力、多様な人々と協働して学ぶためのコミュニケーション能力として、高等学校段階の内容を十分に身に付けておくことが求められる。
- ・その他、地理歴史・公民に関連する内容として、諸地域の産業や歴史、地理的特徴等に関する知識を身に付けるとともに、社会構造の変遷や地域および地球規模の課題に対して広く関心を持ち、その解決策や社会貢献について自分の考えを深めておくことに期待する。

・入学者選抜の基本方針

<求める学習成果（学力の3要素）と入学者選抜方法の対応関係>

求める 学習成果	入試区分／入学者選抜方法													
	一般選抜 (前期日程・学部別 入試)		一般選抜 (後期 日程)		総合型選抜			帰国生徒選抜			私費外国人 留学生入試			
	共通	個別	共通	個別	書類	面接	共通	書類	総合	面接	書類	総合	面接	
知識・技能	◎	○	◎	○	☆	○	◎	☆	◎	○	☆	◎	○	
思考力・判断力・ 表現力等の能力	○	◎	○	◎	☆	◎	○	☆	◎	◎	☆	◎	◎	
主体性を持って 多様な人々と協働 して学ぶ態度	—	—	—	—	☆	◎	—	☆	—	◎	☆	—	◎	

※共通：大学入学共通テスト，個別：個別学力検査，書類：書類審査，課題：課題論文，
総合：総合問題

※◎：特に重視する要素，○：重視する要素，☆：総合的な判断となる要素

現代日本学プログラム課程

・求める学生像

(1) 知識・理解

現代日本学プログラム課程では、日本語および日本の社会・文化について多角的に学修するのみならず、人文・社会科学の専門知識も学ぶことが求められるため、一般的に高い学力と、いずれかの国や地域の文学、歴史、思想、文化、社会、制度などについての基礎的な知識をもとに、その知識を構成するものの見方や考え方を理解する能力を持った学生を求めます。

(2) 思考力・分析力・創造性

物事を論理的に考え、さまざまな視点から分析する、経験に裏付けられた能力を持つとともに、異なる文化や社会に対して開かれた態度で接し客観的に考察しようとする態度や、自らにとって新しい事象に対して創造性をもって考え、対応する姿勢を求めます。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本プログラムでは、日本と世界との架け橋の一端を担ってゆく意欲を持つことが期待されるため、コミュニケーション能力と日本語および現代日本社会への強い関心とともに、自ら問題意識を持ち、積極的に研究・調査を行う活発な主体的な学習意欲をもった学生を求めます。また、多文化・多言語環境の中で、偏見や差別意識を持たない公平かつオープンな姿勢で多様な人々と協働して学ぼうとする協調性を持った姿勢を求めます。

(4) 英語能力

英語による授業を理解するのに十全な英語能力を有するとともに、論理的に考え、それを文章および口頭で表現する能力を身につけていることを求めます。

・入学前に学習しておくことが期待される内容

- どの科目も幅広く学習し、本学での学修に必要な基礎学力を身につけるとともに、日本語および現代日本社会に対する興味・関心をもって学習をすすめておくことを期待します。
- 多様な人々と協働して学んでいくためのコミュニケーション能力や、プレゼンテーション能力を日頃から養っておくことを期待します。

・入学者選抜方針

出願書類と面接により選抜します。知識・理解については、主に出願書類により、高校までの成績あるいはこれまでの学修をもとに評価します。英語によるコミュニケーションについては、出願書類と面接により、母語である場合も含め、一定の英語能力を有していることを評価します。思考力・分析力・主体性・多様な人々と協働して学ぶ態度については、出願書類と面接により総合的に評価します。

インテグレイテッドサイエンスプログラム

・求める学生像

(1) 知識・理解

高等学校の様々な科目での基礎的な学力を有し、科学を主体的に学んでいく能力を持った学生を求めます。

(2) 思考力・判断力・創造性

科学は観測や実験を基に自然界を知る学問です。状況に応じて説明手法を取捨選択する判断力と思考力が必要です。将来、研究分野や社会において新しい価値を創造する志向性のある学生を求めます。

(3) 表現力・コミュニケーション能力

課題を基本から理解し、それを論理的に説明できる文章コミュニケーション能力を身につけていることを求めます。

(4) 主体性・忍耐力

広く知的好奇心を持ち、既存の知識や解釈だけでは満足せず、自ら課題解決を試みる主体性を持った学生を求めます。また、新しい発見には多くの失敗を経験することがあります。そのため粘り強さを併せ持つ学生を求めます。

(5) 多様性・協働性

考えの違う相手に対して、感情的にならずに自分の考えを冷静に伝える能力を身につけていることを求めます。チームにおいて、仲間を認め合いながら役割を全うし積極的に貢献できる学生を求めます。

・入学前に学習しておくことが期待される内容

インテグレイテッドサイエンスプログラムでは、社会科学と自然科学の統合科目を学びます。そのため高校で学ぶ、国語、英語、数学、社会科学の幅広い知識を学んでおくことを期待します。また、本プログラムでは学士課程を3.5年間で早期卒業できる制度要があることから、最初の半年間で大学における数学、物理学、化学、生物学を学びます。そのため、高校までは、数学に加えて、物理、化学、生物についての基本的知識を習得していることが望まれます。

・人材育成目的

現在 Society5.0 時代を迎え、アカデミックな研究や社会において、新しい価値を作る人材が求

められています。また、新しい価値を作るには単にアイデアだけでなく創造を実現するための組織を作ることも重要となります。本プログラムでは将来、社会に新しい価値を作り出す人材を育成することを目的としています。

全学教育科目では、自然科学や社会科学の文理融合型の科目により、社会における答えのない問題への取り組み方を学びます。また、ビジネススキル科目により、新しい価値を創造するために必要なスキルを学びます。自然科学の各分野の研究を通じて、創造力や将来のアカデミックな研究や社会における研究に重要となる社会人基礎力を修養します。

・ 入学者選抜方針

第1次選考では、統一試験や高校の成績、そして推薦書により、高校までの学修についての知識や理解、そして粘り強さを評価します。

第2次選考は、面接を通じて、数学や科学の基礎的な知識や理解と共に、思考力、表現力や英語でのコミュニケーション能力、主体性を評価します。